

女川中学校（宮城）の生徒が紡いだ五・七・五（平成三十年五月）

↓ 瑞穂中学校（東京）の生徒が紡いだ七・七（平成三十年十一月）

76 地球とは ふんいきちがう ほかのほし

訪ねてみたい 生きてるうちに

77 みせをでて 夜空を見ると 星光る

星の光は ガスの爆発

78 この想い 叶わないまま 終わるかな

しかしいつかは かなうだろう

果てなき夜空に 思い流るる

私は信じる 互いに叶うと

届いてほしい 冬の夜空で

くぎりつけよう 君への想い

叶えさせよう 私も君も

79 つゆの時期 晴れと雨がね 通じ合う

この気持ち 伝わるかな

80 世の中は 理不尽ばかりで なんてやねん

そんなときこそ 笑い飛ばして

なななななな ななんてやねん

この世の中を 僕は変えたい

部活のこもん 理不尽ばっか

なんでや？ なんてやねん！！

東北からも 関西弁響く

でもそんな理屈は 関係ない

81 雲のない 海のような 青い空

とてもキレイな 星は輝き

夜空を見れば 星がきれい

空に舞いあがる 自分からだの身

82 自分に言う 生きる理由を 考えろ！

ずっとあの場所に いちゃいけない

どうせいつか 死ぬのだから

これから先も 長い人生

生きるって 案外楽しいものなんだよ！

君の笑顔を 待つ人がいる

83 夏祭り 夜空にうかぶ 花の色

夏の夜空に ライトアップ

いろとりどりに 夜空へ消えていく

忘れないよう 目に焼きつける

84 夏星が キラキラ光って 呼びかける

それにともない 花火も上がる

85 未完成 そんな僕らに 出来ること

一人一人の 個性をいかせ

まず一個一個 考えてみる

考えなければ 完成できない

でも 人を使うのも大切な

なんでもちようせん

なんでもトライ！

きつと誰かが 知っているはず

小さなことでも 頑張りたい

未来を作り 今生きることに

笑顔忘れず 歩いていこう

儚い思いを 願いのせて

ここから先も 跳んでいくこと

86 夕日見て 今日の日 思い出す

切なく笑った 友の顔を

日が沈むにつれて 忘れさる

笑い合う時間 限られてくる

貴方の笑顔 ずっと見ていたい。

楽しいことも 悲しいことも

あと何日 二組と過ごせる？

年をとつてき 忘れてく日々

思い出す時 笑っちゃうぞ

あすは絶対 いい日になる

87 午後の授業 夢の世界に 行ってきます

帰る頃には 終わりのチャイム

午前の授業 腹なりまくり

授業によつては 気付かないまま

だけど教師は その夢壊す

起きたときには 後の祭りだ

良い夢見てる 先生の声

私は常に 夢たんのうち

おこされちゃったら 夢ぶちこわれ

そして明日も 夢の世界へ……

起きたら授業が終わってる

ただし長くは いられません

88 七年経ち 復興してきた 女川町

行ってみたいな あなたの町に

89 3秒前 打てばよかった あのショット

後悔おそう 今の自分

だが決まるか どうかかわらない

野球人生 終止符打つ

後悔してる 自分の心

なぜだかいつも 後悔するの

91 あなたにだけ 届いてほしい この想い

合格したら 一緒に遊ば

92 風鈴の 音色を聞いて ひと休み

肌をくすぐる あたたかい風

ふと思い出す あの日の想い

休みすぎると 道がなくなる

真っ黒に焼けた 緑側の昼寝

93 7年前 そのときじぶんは なにしてた？

みんなでかえりの あいさつしてた

94 青ジャージ 染まる心は 何色だ

鮮やかな空？ 真っ赤な夕やけ？

95 帰り道 空を見上げて 願い事

大きな空に あなたの笑顔

遠くかなたに 光虫群

今日の夕飯 すしにしてくれ

あの娘とずっと一緒にいたい

かなうといいな この願い事

つづけばいいな いつもの日々が

明日も平和な一日がいい

96 「明日また」 街灯の下 手をふった

明日の僕は どんな僕かな

明日も会えるよう 心から願って

大事にしたい あなたとの時間

97 楽勝だよと あなたに一言 伝えたい

声なき声を 追い風にする

98 夜空見て ふと星さがす 曇り空

ふと明かりさす あなたの光

きれいに輝く 僕らの想いを

かがやくいのち 心を晴らす

今は見えずとも いつかは見える

見つけた星は 一人ぼっち

夢への道は 僕らの手で

私の思いに 応える光

夜空にひかる 宵の明星

99 女川の 眺める景色 変わったな

瑞穂の景色は 変わりません

100 これからの 人生予報は 晴れがいい

雨あがりのね 虹が見たいな。

私の心に 光をください

時には雨も あつてもいいかな

努力は絶対 裏切らない

晴れ以上の 人生にする

時にはつらく 時にはきびしく

くもりもあめも こなくていいよ

雨のち晴れも悪くない

時には雨も 降らせてみれば

嵐の夜も かかってこいよ

普通の日々が ほしだけ

晴れにするのは そう私

日が昇るまで つばしろう

雨雲なんて 吹き飛ばしてやる

時々くもるが あとは晴れ

本気の勉強が 人生の革命

どんなときでも 笑顔がいい

いろいろなことが

まっちゃうけていても